

令和 三 年度（A日程）

四天王寺東中学校入学試験問題

国 語

注意 答はすべて解答用紙に書きなさい。

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

あれは忘れもしません、昭和三十六年の九月十六日のことでした。関西、とくに①大和では近年に例のない大暴風雨が襲^{おそ}ってきました。瞬間^{しゅんかん}風速七十五メートルを記録した、あの第二室戸^{むろと}台風です。

私は七、八人の者と一緒に薬師寺の金堂を根城^{ねじろ}にして伽藍^{がらん}の警戒^{けいかい}にあたりました。奈良は地勢が低く、水位が高い。そのうちに台風で倒れそうだと思っていた境内^{けいだい}の樹は四、五十分のあいだにことごとく倒れてしまいました。太い樹がねじれるように、大きな根っこをつけたまま倒れる。それはすさまじい光景です。それ以来、②プロレスをテレビで見るなどアホらしくなったものです。

あとで調べたところによりますと、小さな樹はべつにしても百六十四本の樹が根っこをつけたまま倒れたのです。何しろ、それまでは昼でも森厳^{しんげん}な気がただよっていた境内が、台風以来、夕方になってもまだ昼間のように思える。それまで鬱蒼^{うつそう}としていただけに、③そんなふうに感ずるわけです。

薬師寺には名高い三重塔^{どう}があります。

この塔は高さが三十四メートルあり、薬師寺で一番高く一番古いものです。塔の先端には九輪^{くりん}や水煙^{すいえん}があり、それが十メートルほどもある。現在の七円ハガキには笛吹童子^{ふえふきどうじ}が印刷されていますが、あれは薬師寺三重塔の水煙にある天人の模様からとったものです。その部分は銅でできているのですが、④台風の中で揺れながらガチャガチャと金属の触れあうきしみが私の胸^{つらぬ}を貫^{つらぬ}いてくるのです。

この塔は上から下まで一本の柱で通っているので、上の水煙や九輪が揺れるということとは下も揺れるということです。正直申しまして、もう伽藍の警戒もあらばこそ、私は「ああ、塔が倒れる。一三〇〇年もの歴史を持つこの塔が、いま私の目の前で倒れる」ということだけを複雑な気持ちで考えつづけていました。

この塔の最後を見とどけるのが私の責任なんだ、と私は考えました。そして、吹きすさぶ風雨の中をAのようにになって塔の見えるところをまわりつづけました。塔の最後の姿をa眼底^{えんてい}に灼^やきつけるつもりだったのです。

薬師寺の金堂^{こんどう}は三重塔の斜め向かいにあり、西暦一六〇〇年（慶長五年）に豊臣家が建てた仮建築のままですけれども、軒^{のき}の出が非常に深い建物です。その太い釘^{くぎ}で打ちつけてある格子戸^{こうし}が四枚とも吹き飛ばされてしまう。金堂の中には世界一の仏像といわれている国宝の薬師三尊^{やくしさんぞん}がある。このご本尊はニメートル五十五センチもあり、その大きな光背^{こうはい}は、とても人の力では動かせないのですが、それがぎくぎく動いている。金堂全体がふっと持ち上がるような感じでした。

「えらいこっちゃ」

一人のおじいさんがそういつて金堂から飛び出しました。飛び出した瞬間、おじいさんの体は浮き上がって柱と柱のあいだを吹き飛ばされました。それからしばらくたってからです、「吹けば飛ばよな……」という歌が流行しだしましたのは。人間が風に吹き飛ばされるというようなことを、私ははじめて目撃いたしました。

ところが、三重塔の方は釘を一本も使っていない建築なんです。

B すらこういう状態なのだから、高く空に聳え、釘を使っていない三重塔は……と私は思ったのです。三重塔の最後を、いま私が見とどけるのだ、と思つたとき、私は妙に感動に **b** 二 た気持ちにつつまれました。緊張と恐怖の三時間――そして、台風が去ったあとで、私は見たのです、あの暴風の中でいささかもゆるぎなく佇立している三重塔の雄々しい姿を！ 私は呪縛された者のようにたたずみ、塔を見上げながら涙が頬を濡らすのを感じていました。

私はそのとき、深い感動と同時に巨きな教訓も得ていたのです。

東京オリンピックがあつた年（昭和三十九年）に新潟で国体が開催されました。

そのとき、信濃川に昭和大橋という立派な橋ができた。そのころ、私は新潟の知人から「こんな立派な橋ができました」という絵ハガキを何枚かもらいました。

その年の六月、あの新潟地震がおきた。悲惨な事故が起きた大地震だったので記憶していると思いますが、そのとき構造力学的に絶対大丈夫だといわれていた昭和大橋が地震がきた瞬間、ポキッと折れてしまったのです。

C、その隣りにある古い方の万代橋は大丈夫だったのです。私は橋の構造についての **c** センモンの知識はありませんけれど、この話から現代人はどうも⑤ 見えざるものへの努力というものが不足しているのではないかというふうに思えます。

目に見えるところだけ奇麗に、華美にかざりたてる。見てくれはよいが、中身はカラッポ。そんな差が古い橋は大丈夫なのに、近代建築の粋を集めたはずの新しい橋が駄目だったということになったのではないかと思います。

見えないものに向かって無限の努力をする、見えないところを大切にする、それが宗教心です。そういう宗教的な心を大切にした私たちの先祖が、法隆寺、東大寺、薬師寺など、あの上代の輝かしい世界的な文化をつくりあげたのです。その⑥ 根源の精神、宗教的な心がそれを謳いあげたのです。

私はよく建築の先生方にたずねるのです。

「法隆寺、唐招提寺、東大寺、そのほか奈良には立派な古い建物がいっぱいありますが、どうしていまの建築家は古い建物の精神を学ぼうとしないのですか？」

D、先生方はいます。

「いまの建築家はこんなバカなまねはしませんよ」

と――。バカがこしらえたものを修学旅行の生徒が金を払って見に来る。また、民族のふるさとだと憧^{あこが}れてやって来る人も大勢いる。奇妙なことだと思いがすが、そのへんの理屈は現代の建築の先生にいわせると、こういうことになるのです。

「昔の建築は目に見えない d 天井裏なんかにもものすごく材料を使っている。いまの建築家にあれと同じだけの材料を使わせたら、同じ形の同じ大きさの建物を二つか三つ、場合によったら四つでもつくります」というわけです。

薬師寺の三重塔の天井裏などに入りますと、私の体が自由に身動きできないほど材料がつまっています。ところが、いまの建築ですと、天井裏などは材料どころか、所謂^{いわゆる}⑦見事な空間で構成されているということになります。見えるところには材料を使うが、見えないところははぶく。目に見えないところに材料を使うのは無駄であるという考え方です。

(高田好胤『心』より)

問 1 〓線 a く d のカタカナを漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

問 2 〓線①「大和^{やまと}」とありますが、現在のどこのことですか。文中から二字で抜き出さない。

問 3 〓線②「プロレスをテレビで見るなどアホらしくなったものです」とありますが、その理由として最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア テレビの世界よりも、現実の出来事の方が、共感を得ることができるから。
- イ プロレスは、娯楽^{ごらく}の部分が^{多く}、格闘^{かくとう}技として現実味に欠けるから。
- ウ 大木がことごとく倒れる^{はくりよく}迫力はすさまじく、プロレスの比ではなかったから。
- エ 台風の迫力は、人間がするプロレスの迫力とは性質がまるで異なるから。

問 4 ——— 線③ 「そんなふうに感ずる」とありますが、その理由として最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 樹木が大きな根っこをつけたまま倒れたので、静けさに満ちていた境内がさわがしくなったから。

イ 樹木がこんもりとしげってうす暗かったのに、木がなくなって明るくなつたから。

ウ 樹木が多くて暗かった境内が、急に明るくなったことでより森厳なふんいきになったから。

エ 境内の大木がことごとく倒れたことで、非常にショックを受けたためぼうぜんとしてしまったから。

問 5 ——— 線④ 「台風の中で揺れながら」とありますが、何が揺れるのですか。五字で抜き出して答えなさい。

問 6 A に入る語として最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア むれネズミ イ 生き馬 ウ 負け犬 エ ネコの子

問 7 B に入る語を文中から漢字二字で抜き出して答えなさい。

問 8 C・D に入る語として最も適当なものを次から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号は二度使えません。

ア つまり イ ところが ウ しかも エ すると

問 9 ——— 線⑤ 「見えざるものへの努力」とありますが、その説明として最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 構造力学を重視した最先端の建造物を作ること。

イ 外見を重視した美しい近代的な建造物を作ること。

ウ 古い万代橋のような橋を大切に補強し直すこと。

エ 建造物の内部の空間にも十分な材料を使うこと。

問 10 ——— 線⑥ 「根源の精神」とは、どのようなことですか。三十字以内で答えなさい。※句読点は一字に数えます。

問 11 ——— 線⑦「見事な空間」とありますが、それはどのような空間のことですか。最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 見えないところに意図的に作られた、現代的な美しい空間のこと。

イ 見えないところの労力をはぶき、材料を使わない空間のこと。

ウ 昔の建築の材料を使って組み立てた、素晴らしい空間のこと。

エ 薬師寺の三重塔の天井裏にある、宗教心の現れた空間のこと。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

始業式の前の教室は、ひさしぶりに顔を合わせた友だち同士のおしゃべりでにぎわっていた。誰も選挙の話はしない。忘れている？ どうでもいいから話さない？ それとも、みんなも緊張しているから、わざとその話題に触れないようにしているのだろうか。

少年はお年玉やゲームの話題に付き合っておしゃべりしながら、注意深くみんなの様子をうかがった。特に、五番めと六番めの座を争いそうな梶間^{かじま}くんと榎本^{えのもと}くんを。

二人がちよつとでも学級委員をやりがついていたら、すぐに「カジとエノちゃんが三学期の委員だよ、決まりだよ、なーっ？」とみんなに言うつもりだった。そのときの a 口調や表情の練習も、頭の中で何度も繰り返していたのに、二人がなにを考えているかは最後までわからずじまいだった。

体育館での始業式が終わり、教室に戻ると、担任の間宮先生が「今日の『終わりの会』は三学期の学級委員の選挙にします」と言った。

A したままで、むしろくしゃしたままの胸が、息ができないほど締めつけられた。列ごとに配られた投票用紙を後ろに回すとき、指がかすかに震えた^{ふる}、よくな気がした。

投票するのは、男女二人ずつ。

「好き嫌いや人気投票じゃなくて、クラスにとって誰が委員になってくれたら一番いいのか、よく考えて投票しなきゃだめよ」

ふだんはスウェット姿がほとんどの先生が、今日は始業式だからスカートとジヤケット姿——それだけでなにか、いつもは優しい先生が急に厳しくなったように見える。

少年は投票用紙に向かった。女子の委員は最初から遠藤さんと矢口さんに決まっていたのに、名前を書くときにシャープペンシルの芯^{しん}が折れてしまった。

男子は——最初に梶間くんと榎本くんの名前を並べて書いて、梶間くんを消

して、紺野^{こんの}くんの名前に書き換えた。

深呼吸をした。榎本くんの名前も消した。顔を伏せ、両手で壁^{かべ}をつくって、小さく切ったわら半紙の投票用紙を隠した。シャープペンシルを素早く動かして

①二人めの名前を書き終えたら、すぐに紙を折り畳^{たた}んだ。

自分の書いた字は見なかった。読まなくてもわかる。いままでに数えきれないほど書いてきて、これからも数えきれないほど書いていくはずの名前だった。

開票が始まった。

三枚めの投票用紙で、初めて少年の名前が**ぼつ**げられた。「正」の字の上の横棒が黒板に記された。「なんでだよお、誰が入れたんだよ、バカ、なに考えてんだよお」とうつとうしそうに声をあげたら、先生に「開票中は静かにしなさい」と注意された。

また少年の名前が出てきた。「一」に縦棒が加わって、②**ほど**なく三票めも入った。

でも、その時点ですでに榎本くんは「正」の字を完成させていたし、もっと速いペースで票を伸ばしていた梶間くんは、二つめの「正」も残り二票でできあがる。

「カジとエノちゃんでもいいじゃん、もう決まったようなもんじゃん、コールド勝ちじゃん」

椅子の前脚^{まえあし}を浮かせて言うと、先生に「私語をしないの」と名指しで叱^{しか}られた。開票は後半に入った。順調に票を伸ばした梶間くんの当選は確実だったが、二人めの委員は榎本くんと少年が抜きつ抜かれつだった。

投票用紙が残りわずかになると、榎本くんも**B**しはじめ、「俺^{おれ}、やりたくないって言ってんじゃん」「だめだって、俺、学校やめるから」と無駄口^{むだぐち}が増えてきた。うるさい。耳障^{みみざわ}りだ。少年は小さく舌打ちした。さっきの俺も、アレと同じだった？もう一度舌打ちをして、空^{から}あくびをして、あと一票で完成する三つめの「正」から目をそらしたとき、紺野くんの名前が読み上げられた。

初めての得票だった。「紺野」の下に、「正」の横棒が一本。教室のどこから、くすくす笑う声が聞こえた。やだあ、と女子の誰かの声も。

同じ投票用紙に書かれたもう一人の名前も、読み上げられた。

少年の、三つめの「正」ができあがった。

少年は当選した。十五票。榎本くんとは一票差だった。「ちえつ、一瞬^{いつしゆん}期待して損したじゃんよお、カッコ悪ーう！」と榎本くんは甲高い声^{かんだか}で言って、両手を③おどけてひらひらさせた。頬^{ほお}が赤い。教室じゅうを見回しているのに、誰とも目を合わせていない。

少年の頬も赤かった。誰とも目を合わせず、黒板に並ぶ「正」やできかけの「正」をじっと、にらむように見つめていた。

エノちゃんもおんなじだったんだ、と思った。あいつも俺とおんなじで、胸がどきどきして、むしろくしゃしていたのかもしれない。ほんとうはカジだって、他の奴らだって、おんなじだったのかもしれない。

「じゃあ、委員になったひとは前に出て、一言ずつ挨拶してください」と先生が言った。

女子の二人と梶間くんが遅れて、少年はCと席を立った。当選してcコトワるなんて、やつぱりできない。

うつむいて歩きだしたら、紺野くんの顔がちらりと目に入った。結局一票だけで終わった紺野くんは、こっちを見て、やったね、というふうに笑っていた。三つの「正」の中には、紺野くんが入れてくれた一票も含まれているのだろう、きっと。

少年は梶間くんたちと並んで黒板の前に立ち、みんなと向き合った。【1】を見られない。もしかしたら字の書き癖で……と思うと、怖くて、先生のほうも向けない。選挙が終わった瞬間には④荷物を下ろしたように軽くなった気分が、いまはまた重い。さっきよりずっと重くて、苦くて、悔しくて、悲しい。

梶間くんは「三学期は短いけど、一所懸命がんばるから、みんなも協力してください」と【2】を張って、大きな声で挨拶をした。

少年は横を向いて、「ぼくも同じです」とだけ言った。

「それだけ？」

先生の声に、思わず⑤ひるんで振り向いた。先生は窓を背にして立っていた。外の陽射しがまぶしくて顔がよく見えない。

「当選したひとは『正しい』がたくさんあったんだから、挨拶も、きちんと、正しい挨拶にしないさ」

意味のわかった何人かが笑った。少年にもわかったから——⑥逃げるように正面を向いた。

榎本くんはもうふだんの調子に戻って、隣となりの女子の浅井さんと小声でおしゃべりしていた。紺野くんもいる。挨拶のあとの拍手にd備えて、相撲すもうの土俵どひょう入りみたいに手を開いて、少年と目が合うと、すげえーっ、カッコいい、と口だけ動かして、また笑った。

少年は目をそらす。気をつけをして、軽くつま先立って、息を吐きながら踵かかとを下ろした。いつか先生に教わった、緊張しないで挨拶をするときのコツだ。

「ぼくも……一所懸命、がんばります」

ちゃんと言えた。

「よろしく願います」と頭を下げると、先生が「はい、新しい学級委員に拍手ーっ」と言った。みんなの拍手に包まれると、急に【 2 】が熱くなって、涙が出そうになった。

「じゃあ、みんなはこれで下校です、学級委員の初仕事、黒板の字を消してくださーい」

教室は椅子を引く音やランドセルの蓋ふたを閉める音やおしゃべりの声で騒がしくなった。

黒板消しを手にした少年は、まっさきに自分の名前と三つの「正」を消した。次に、紺野くんの名前を消し、「一」を消した。

榎本くんの名前の前に立って、あと一本あれば完成していた三つめの「正」の、ほんとうなら最後の横棒が入っていたところをしばらく見つめてから、名前と「正」をまとめてひと拭ふきで消した。

先生に名前を呼ばれた。軽くてやわらかな、歌うような口調だった。

振り向くと、さっきと同じ場所に立っていた先生は、「学級委員の仕事、しつかりがんばりなさいよ」と笑った。

少年は黙ってうなずいた。笑い返したかったが、頬の力を抜いたら、違う顔になってしまいうだった。

教卓のそばまで、紺野くんが来た。「終わったら、一緒に帰ろうぜ」と少年に言った。

今度も、⑦ にも応えられなかった。黒板に向き直って、自分の名前があった場所を、また黒板消しで拭いた。何度も何度も拭いた。

書記をつとめた日直の藍原あい はらくんがよほど強く書いたのだろう、⑧ 三つめの「正」は、どんなに拭いても、いつまでもうつすらと跡が残っていた。

（重松清『小学五年生』より 一部改）

問 1 〓 線 a ～ d のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

問 2

 に入る言葉として最も適当なものを次から一つずつ選び、

それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号は二度使えません。

- | | | | | | |
|---|------|---|------|---|------|
| ア | ウトウト | イ | どきどき | ウ | そわそわ |
| エ | ゲラゲラ | オ | のろのろ | | |

問 3 この文章には次の一文が抜けています。文中のどこに入りますか。入る部分の直前の五字を抜き出して答えなさい。※句読点は一字に数えます。

だってあいついい奴だもん、トロいけど優しいし、三学期になってもゼロ票ってかわいいそうだし。

問 4 — 線①「二人めの名前」とありますが、だれのことですか。文中から抜き出しなさい。

問 5 — 線②「ほどなく」・③「おどけて」・⑤「ひるんで」の意味として、最も適当なものを次から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

② 「ほどなく」

ア さりげなく イ 間もなく
ウ しかたなく エ いそいで

③ 「おどけて」

ア ふざけて イ おどろいて
ウ 広げて エ あげて

⑤ 「ひるんで」

ア ゆっくりした様子で イ 不思議な様子で
ウ おびえた様子で エ 意外な様子で

問 6 — 1 — に入る名前として最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 梶間くん イ 榎本くん ウ 藍原くん エ 間宮先生

問 7 — 線④「荷物を下ろしたように軽くなった気分」、—— 線⑥「逃げるように正面をむいた」での、それぞれの場面の心情として最も適当なものを次から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 残念な気持ち イ 安心した気持ち ウ 悲しい気持ち
エ 緊張した気持ち オ 気まずい気持ち カ 楽しい気持ち

問 8 二つの【 2 】に共通して入る語を漢字一字で答えなさい。

問 9 ———線⑦「なにも応えられなかった。」とありますが、その理由として最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分が学級委員に当選をして、先生に励まされていたところを紺野くんに見られてははずかしかったから。

イ 自分が紺野くんに投票をして友だちに冷やかされたことが、紺野くんに気づかれて気まずかったから。

ウ ロでは嫌がっていた自分なのに学級委員に当選をしてしまい、本当は喜んでいる自分に気づかれたと思ったから。

エ ライバルの票を減らすため、票の集まりそうでない紺野くんに投票した自分に対してははずかしかったから。

問 10 ———線⑧「三つめの『正』は、どんなに拭いても、いつまでもうつすらと跡が残っていた」とありますが、このときの少年の気持ちとして最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 接戦で学級委員に当選したことを、うれしく思う気持ち。

イ 「三つめの『正』」が完成して当選できた複雑な気持ち。

ウ 自分が学級委員に当選できた、その感動が消えない気持ち。

エ 藍原くんの跡が残る力強い書き方に、おどろく気持ち。

三 次の①～⑤の慣用句の意味を後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

① 立て板に水 ② 寝耳に水 ③ 腹をくくる

④ 口を切る ⑤ 目の黒いうち

ア 最初に発言する イ 相手が強すぎることを

ウ 生きている間 エ 意外すぎて信じられない様子

オ すらすら話すこと カ 突然思いがけないことが起こっておどろく様子

キ かくごを決める ク けがをすること

四 例にならって、次のAとBの文字をそれぞれ一つずつ組み合わせ、漢字を五つ作りなさい。ただし、同じものは二度使えません。

例 A〔言〕 B〔舌〕 答え↓話

A〔各 米 市 貝 衣〕

B〔月 田 唐 加 壮〕